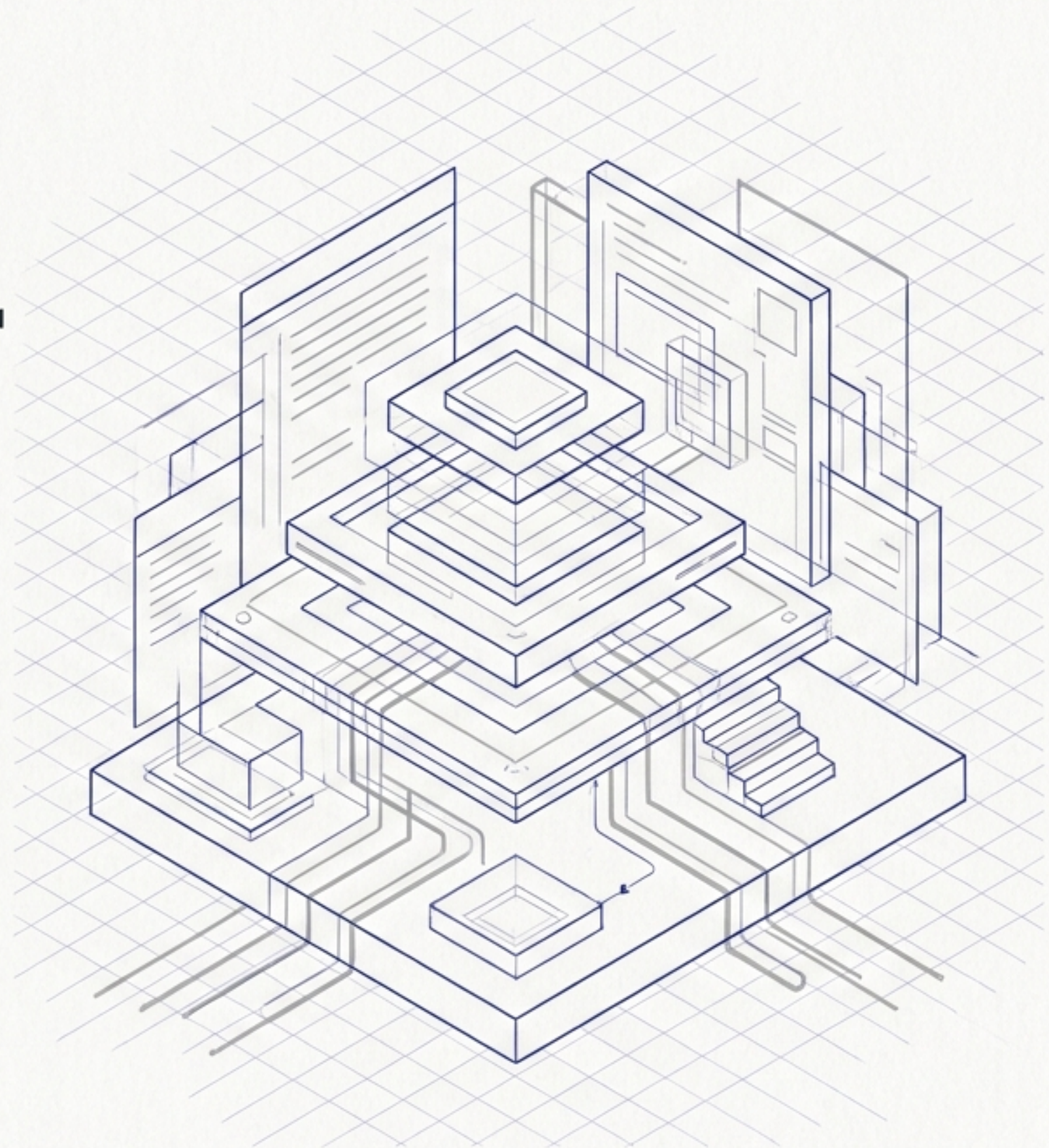


Patentfield 徹底調査・ 分析レポート: 知的アー キーキテクトの作業台

強み・今後の動向・実務家向けの
賢い使い方 (2026年10月 最新版)

The Intelligent Blueprint for IP Strategy

客観的評価に基づくエグゼクティブ・ブリーフィング 兼 実務プレイブック
調査・分析担当: Claude Opus 5.5



結論：国内最高峰のコスパを誇る「調査・分析の作業台」

最大の価値

- 月額2万～3万円台から導入可能



- 事前構造化された8000万件の特許データ（AIサマリー）への標準アクセス

- 検索式・AI類似検索・教師ありAI分類
- 可視化・生成AIを一画面で完結

限界と境界線

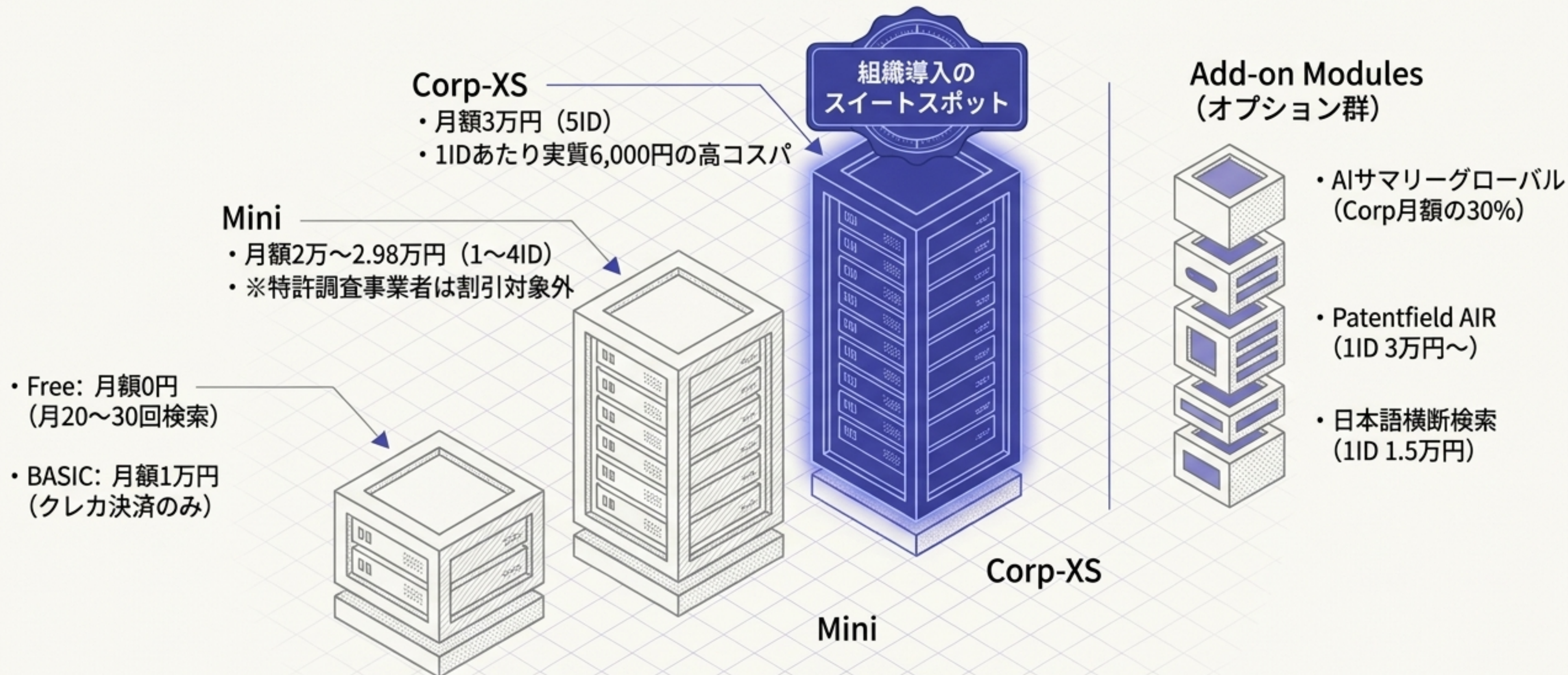


- 非特許文献や一部海外の法的状態については、他DBでの「裏取り」が必須

- FTO（侵害予防調査）や無効資料調査を単独で完結できるDBではない

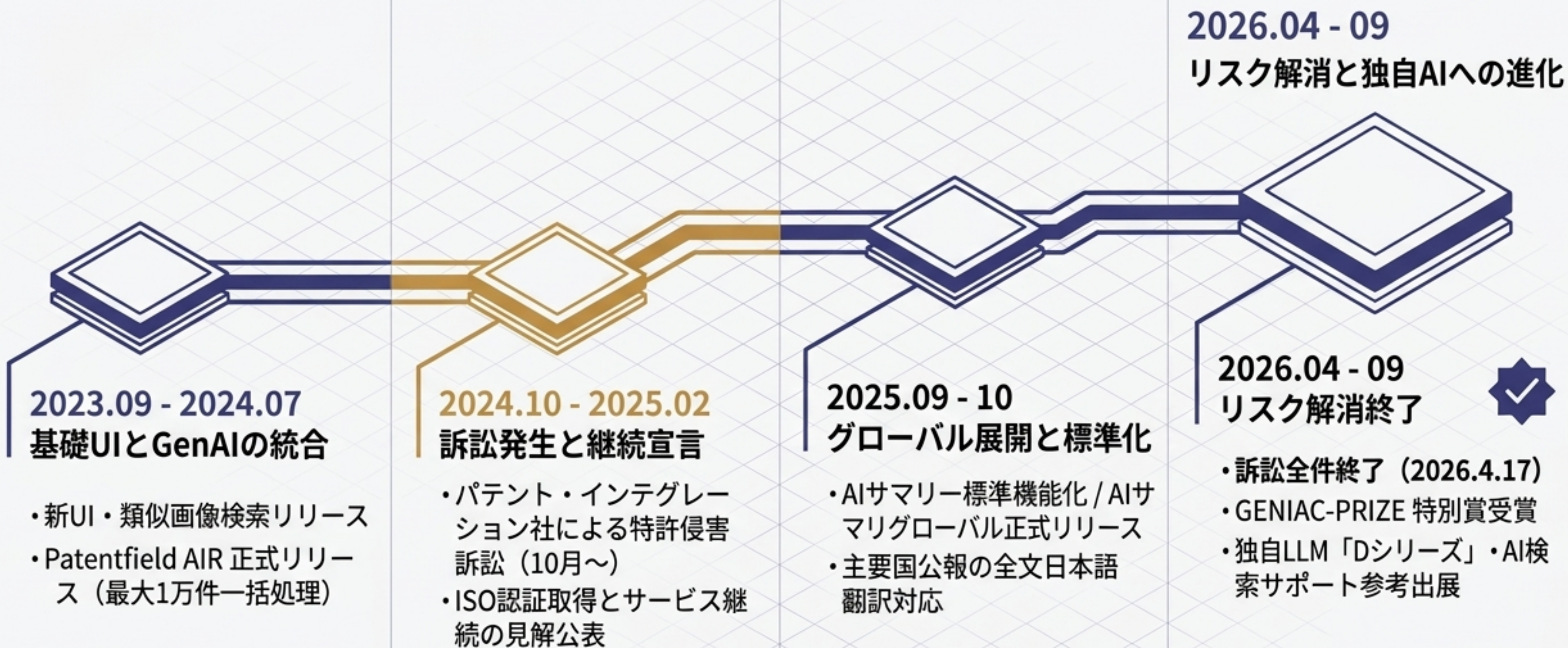
目的を限定し、強みを引き出す「4段構えのワークフロー」を構築することで、
知財・R&D部門に劇的な効率化をもたらす。

モジュール化されたコスト構造と基本プラン

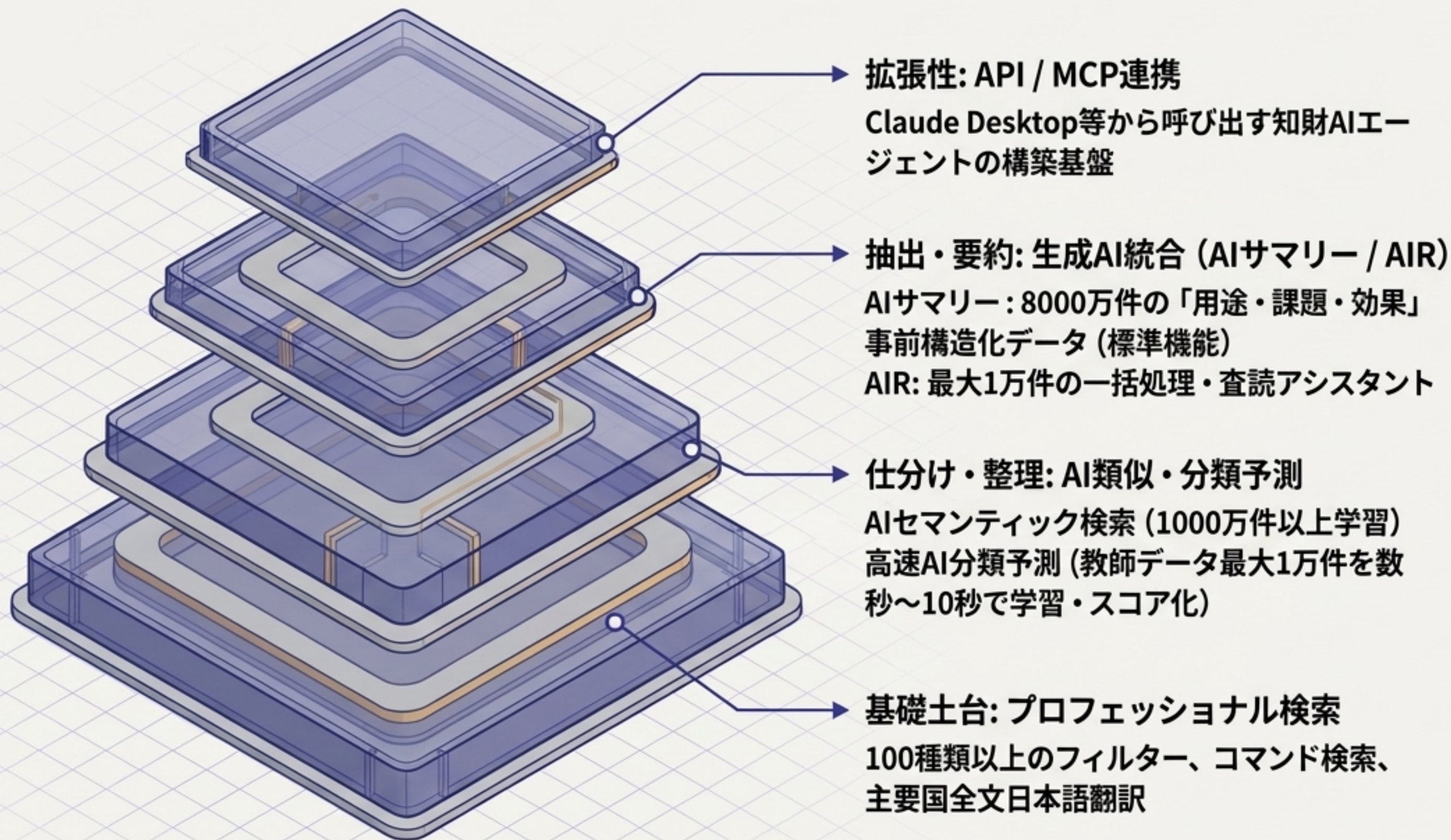


最低契約期間1年・初期費用ゼロ。1IDからエンタープライズまでシームレスに拡張可能。

進化の軌跡：生成AI統合の猛スピードと訴訟リスクの解消



コア・ケイパビリティ：4層の技術スタックアーキテクチャ

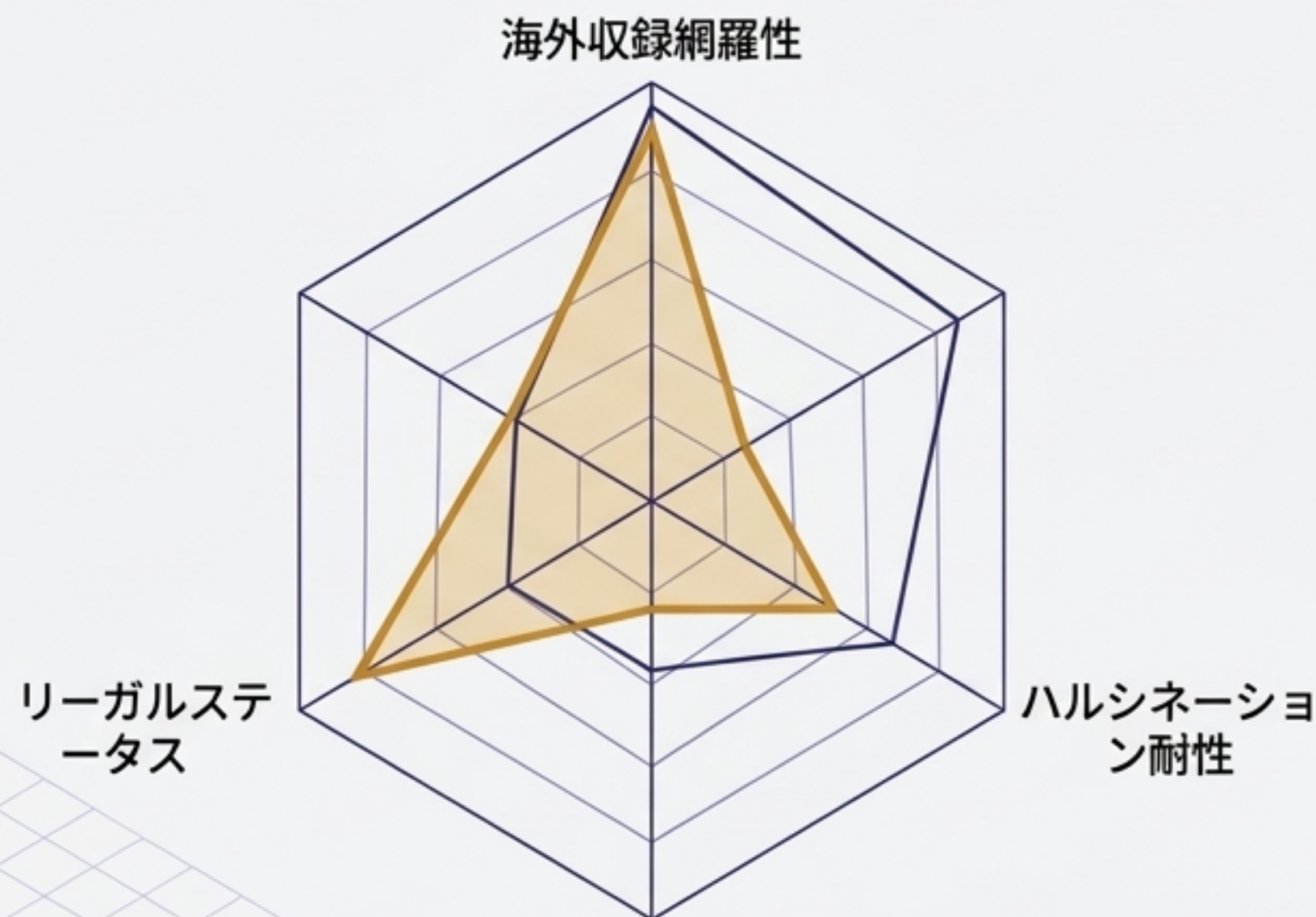


「これらすべてを
同一UI上でシーム
レスに連携で
きる点」が最大の
差別化要因。

競合比較ポジショニング・マトリクス

評価軸	Patentfield	国内老舗DB	グローバル大手	AIネイティブ系
価格優位性	◎ 月2万~/5IDで3万	△	△	◐
日本語検索式・経過情報	◐	◎	◐	△
AI類似検索	◐	◐	◎	◎
教師あり高速AI分類	◎	◐	◐	△
生成AI統合	◎ AIR+事前要約	◐	◎	◐
海外収録・付加価値データ	△	◐	◎	◐
Synthesis Tag Best for...	1人～数人の知財・ R&Dが自力で回すア ジャイル組織	JP品質と名寄せ重視 の伝統的知財部	グローバルFTOと法的 状態を極める大企業	AI探索特化を求める 先進チーム

弱みとリスク管理（ブラインドスポットの把握）



Warning 1: 収録範囲の物理的な「穴」

内容: 韓国は2016年以降、中国は2009年以前がテキストのみ。その他はDOCDB（書誌のみ）。非特許文献も未確認。

対策: 独・仏・英などの全文検索・権利確認には不向き。他DBや論文DBとの併用が必須。



Warning 2: FTOにおける法的状態の限界

内容: 各国の年金切れや移行状況といったリーガルステータスの精度・網羅性は完全ではない。

対策: FTOの最終裏取りは、必ず各国特許庁DBやINPADOC系で実施する。



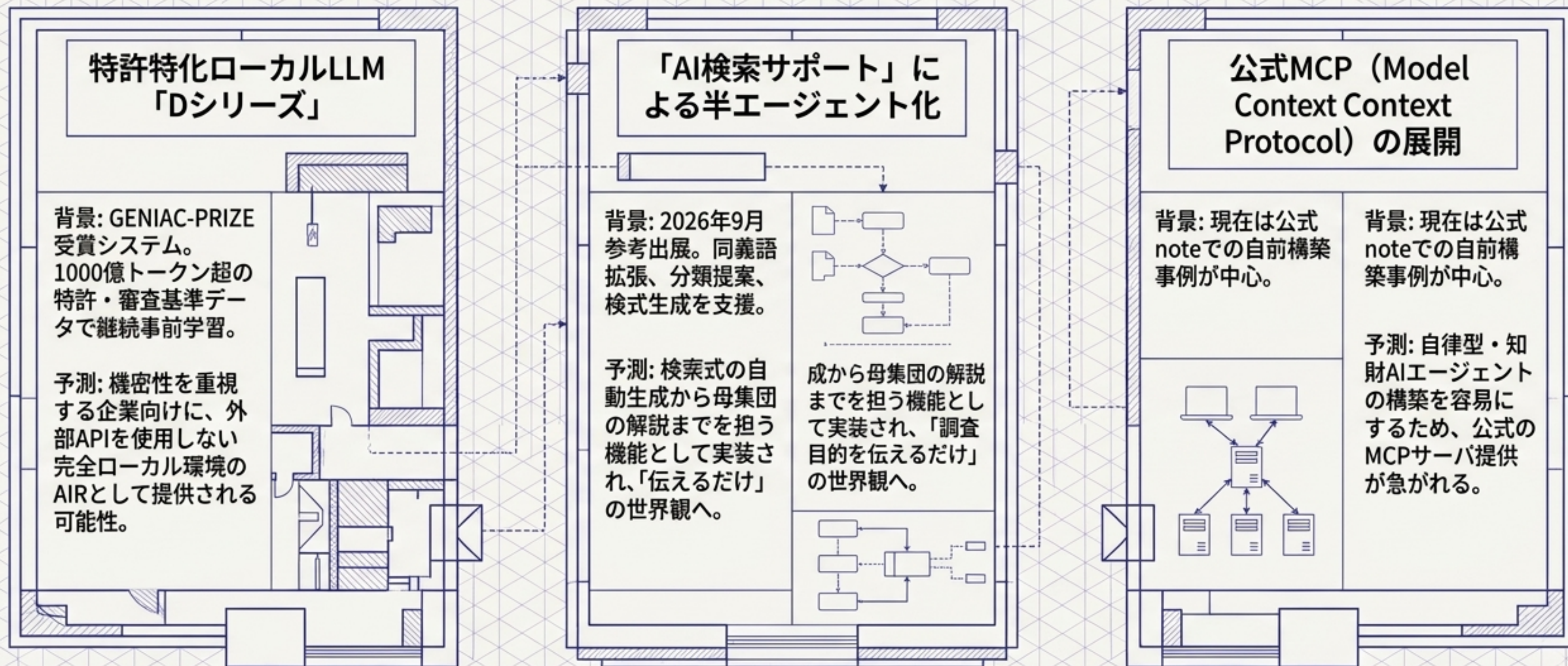
Warning 3: AIハルシネーションと機密情報リスク

内容: AIRやサマリーの出力には幻覚リスクあり。未出願情報の入力にも注意が必要。

対策: AIRの一次判定結果は必ず原文で最終確認。機密情報を扱う場合は「専用クラウド環境」やAPI送信条件を事前確認。

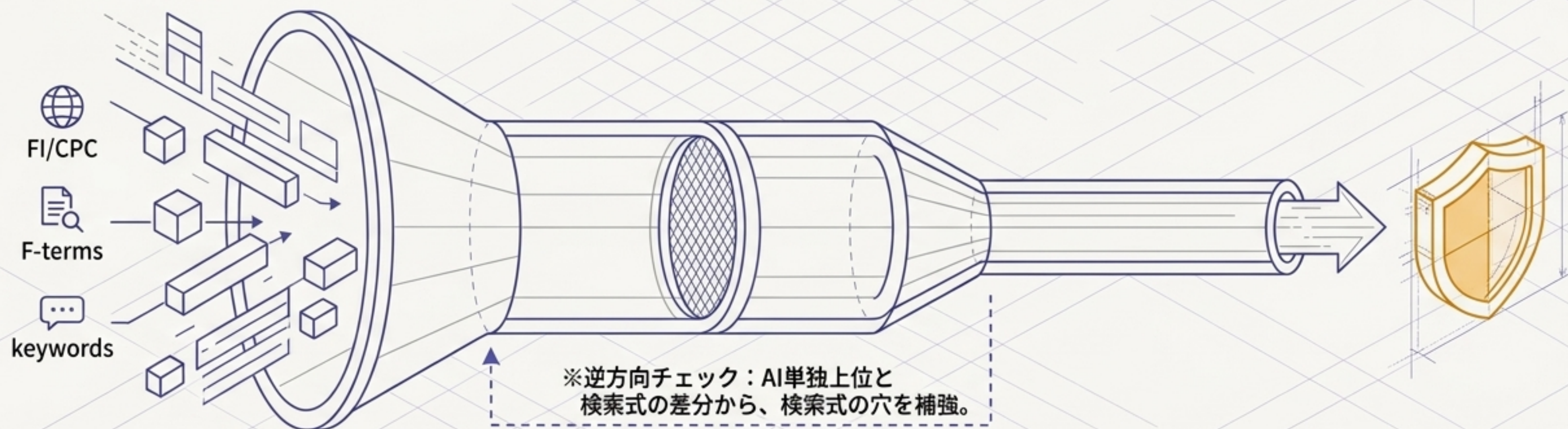


今後の動向とロードマップ（2026-2027予測）



実務プレイブック① 先行技術・無効資料調査

網羅性と効率を両立するハイブリッド・アプローチ



Step 1: 検索式で網を張る

FI/CPC・Fターム＋キーワードで数千～数万件の広い母集団を作成。網羅性は「人間の論理」で担保。

Step 2: AI類似度順ソート

無効化したいクレーム等を入力し、AIセマンティック検索で並べ替え。読む順番を「AI」が決定。

Step 3: AIR抽出機による一次スクリーニング

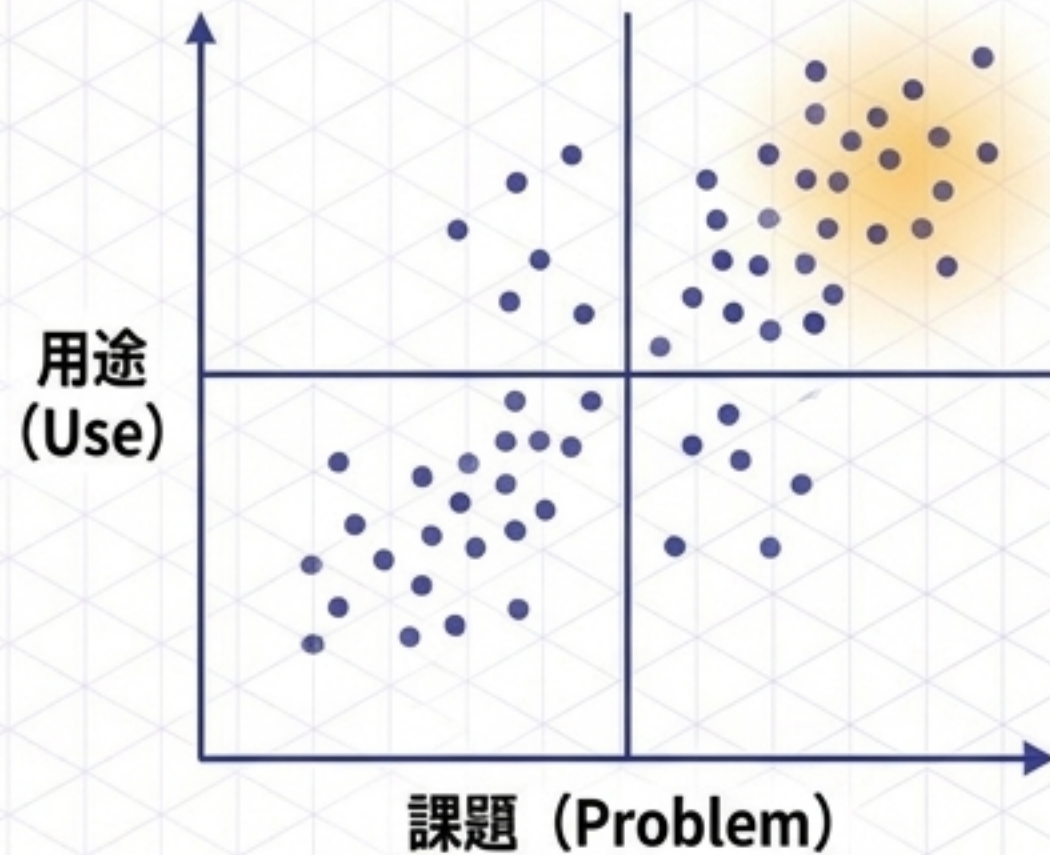
上位群に対し「構成要件A～Dの記載有無と段落番号」を一括指示。

Step 4: 最終裏取り（公式の盾）

最終判断は必ず「原文」で。非特許文献や古い海外特許はJ-PlatPat等で補完。

実務プレイブック② FTO・IPランドスケープ

Section 1: IPランドスケープと競合分析



- AIサマリー活用: 事前付与された「用途・課題ラベル」を用いて「用途×課題」マップを即座に作成。追加LLMコストゼロで経営向け資料の第一稿が完成。
- 分類チューニング: AI分類予測を活用し、200-500件の人手ラベルから社内独自マップ軸を自動付与。

Section 2: FTO（侵害予防調査）の安全な切り分け

製品仕様書をAI検索（取りこぼし防止網）

生存権利に絞り込み

AIRで「本製品との関係」を一次判定

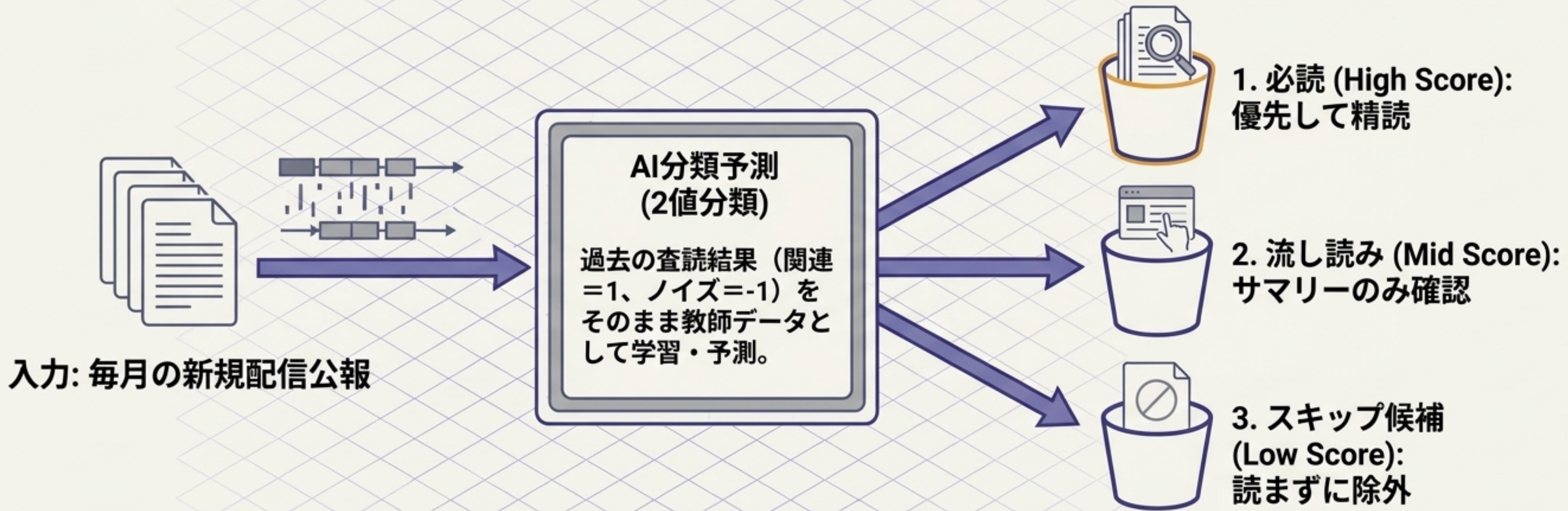
境界線（Red Line）

非侵害の最終判断と権利状態の確認は、必ず人間が専門DBで行う

境界線: Patentfieldの役割は「スクリーニング済み」まで。

実務プレイブック③ SDI（定期監視）の自動化

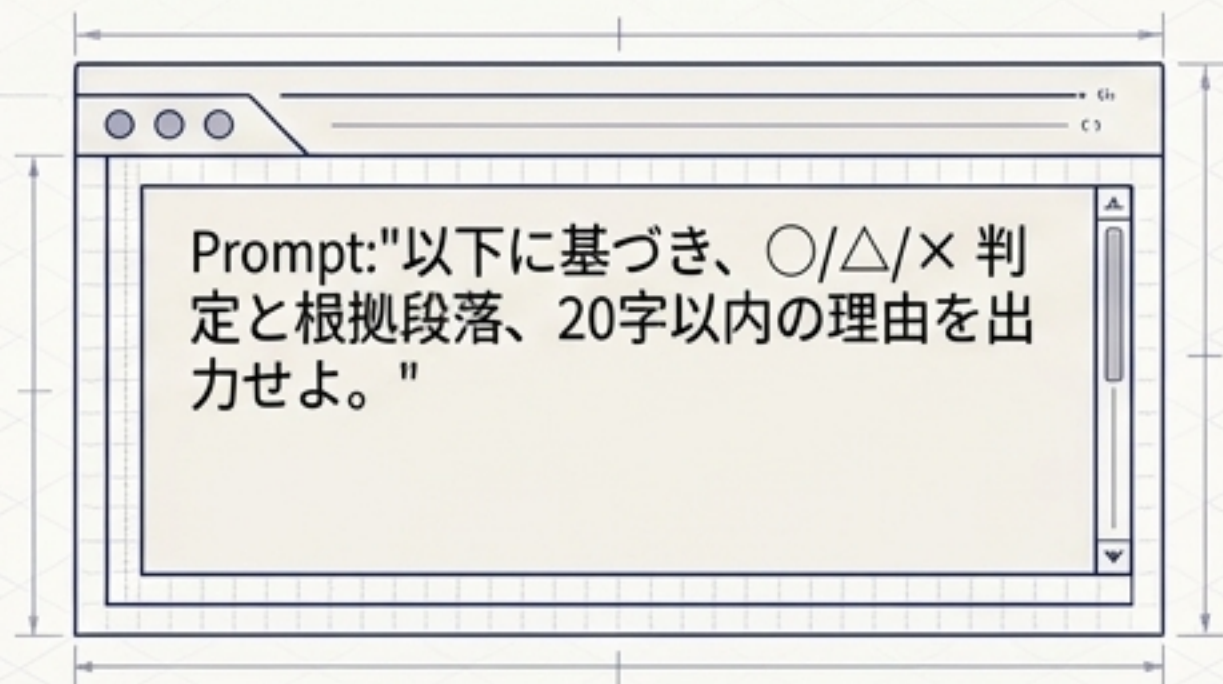
過去の査読資産を「教師データ」として再利用する



Quality Control (抜き取り監査): 再現率を重視するテーマは閾値を低めに設定。
四半期に一度、スキップ群からランダム抽出し、見逃しがないか精度をチェック・再学習。

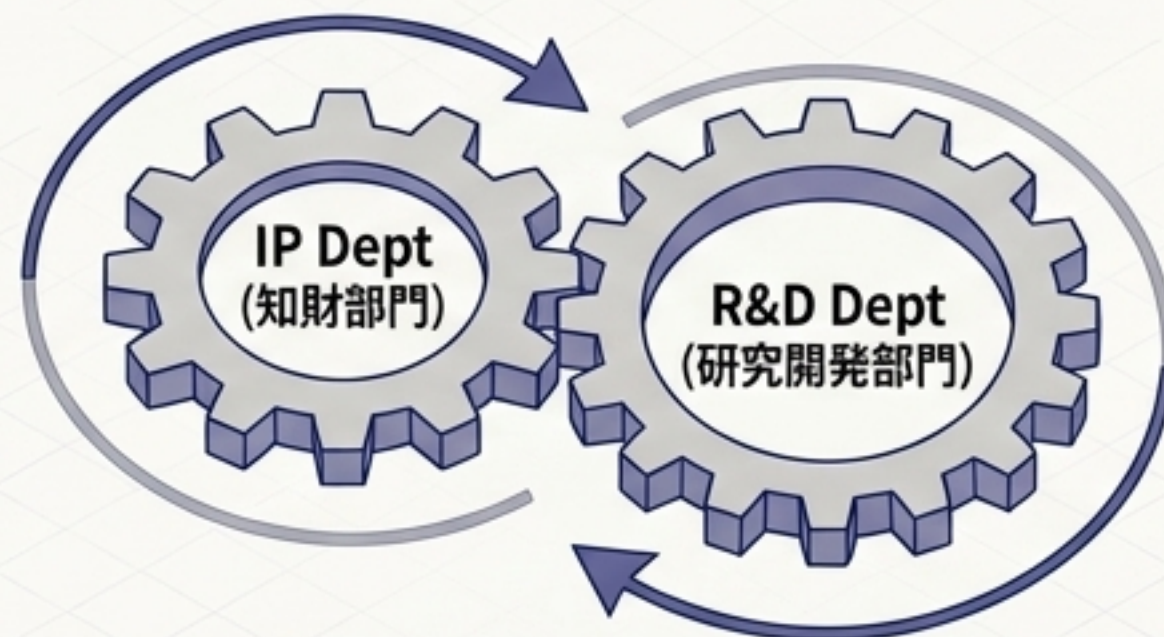
プロンプト設計とチーム連携のベストプラクティス

生成AI（AIR）のプロンプト標準化



- **出力形式の固定化**：「○/△/× + 根拠段落 + 20字以内の理由」等、Excel集計を前提に設計。
- **判定基準の明文化**：「明示的な記載のみ○、示唆は△」と厳格に定義。
- **AIサマリー入力**：全文ではなく要約文を入力し、トークン量（約1/45）とコストを圧縮。

知財部門 × R&D部門の二層連携エコシステム



- **R&D部門（Free / Miniプラン）**：平易な言葉（AIサマリー）で一次検索を実行。
- **知財部門（Corpプラン + AIR）**：共有された一次結果を元に深掘り。
- **ソリューションパックによる共有**：知財部が作成した高品質な「教師データ」や「タグ」をR&Dに展開し、全社的な調査品質の底上げを図る。

Patentfield 導入・運用 診断チェックリスト

Category 1: 検索とスクリーニング

- ☒ 検索式（広網）とAI類似度（優先度）のハイブリッド母集団を構築しているか
- ☒ AI検索単独結果と検索式結果の差分から、検索式の「穴」を確認したか
- ☒ AIRの大量処理時、AIサマリーを入力としてコストと時間を圧縮しているか

Category 2: 分類と自動化（SDI）

- ☒ 過去の査読結果を教師データ化し、SDIの2値分類・閾値設定を完了したか
- ☒ スキップ群に対する「抜き取り監査（再現率チェック）」を定期実施しているか

Category 3: リスク管理と境界線

- ☒ FTOにおける権利状態とファミリーの最終確認を、各国特許庁DB等で裏取りしているか
- ☒ 書誌のみの国、古い年代のアジア特許、非特許文献を他ソースで補完しているか
- ☒ 機密情報を入力する際、LLMのデータ保持条件や専用クラウドの必要性を確認したか

導入前にはFreeプランや無料トライアル（AIR:2週間、サマリーグローバル:1ヶ月）を活用し、自社テーマでの再現率検証を推奨。